

総括評価シート【方針の達成状況等】

(様式2-1)

評価対象年度	平成26 年度～ 28 年度
計画に記載している方針	<p>1. 歴史・伝統を反映した活動の継承と活性化</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域住民や専門家等と連携しながら、伝統芸能及び民俗芸能などの調査や記録に努め、活動の情報発信及び担い手の確保・育成に努める。</li> <li>・津和野民俗芸能保存協会を支援し、関係団体の活性化や未指定の民俗芸能等の調査に努める</li> <li>・歴史的建造物の保存・活用を促進しながら、酒造りなど地域の伝統産業の支援に努める。</li> </ul>
計画に記載している課題	<p>過疎化や少子高齢化が進み、民俗芸能等の維持・継承が難しくなっている。また、未指定文化財の民俗芸能等に対する現状把握や調査等が不十分であり、行政としての支援、関係団体や専門家、行政の連携や協働の取組も十分とはいえない。</p>
対応する進捗評価項目とその推移	<p>○伝統行事・民俗芸能支援事業                      平成26～28年度：実績なし。                      平成29年度：8,914千円(文化庁：文化遺産総合活用推進事業)                      平成30～31年度：20,000千円(予定)(〃)</p>
方針の達成状況・課題の改善状況に関する評価内容 (可能な限り定量的な評価を交えて自由記述)	<p>津和野町民俗芸能保存協会の会員を中心として、平成29～30年度の3カ年での衣装整備や映像記録、PR映像の制作等の事業を実施予定。</p> <p>また、未指定物件についても専門家による調査を平成27年度～29年度で実施しており、その成果を踏まえ県や町の指定にむけた働きかけを行うこととしている。</p>
達成状況の評価、要改善事項	<p><input type="checkbox"/> 想定通り効果が発現している  <input checked="" type="checkbox"/> 今後発現が予想される  <input type="checkbox"/> 要対策検討  <input type="checkbox"/> 現段階では判断できない</p> <p>(要改善事項)</p>
計画見直しの必要性	<p><input checked="" type="checkbox"/> 計画の見直しが不要  <input type="checkbox"/> 計画の見直しが必要                      (見直しの理由・方針)</p>

総括評価シート【方針の達成状況等】

(様式2-1)

評価対象年度	平成26 年度～ 28 年度
計画に記載している方針	<p>2. 歴史的建造物等の保存・活用                      指定・登録文化財については、所有者・管理者等と連携しながら、修理をはじめ適切な保存・活用に努める。                      未指定・未登録文化財については、継続的に調査を実施し、その状況と価値の把握に取り組む。</p>
計画に記載している課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・指定、登録されている建物の中には老朽化により修理が必要となっているものがあるし、未指定や未登録の文化財(建造物)については、指定文化財以上に保存修理が必要なものが多数存在する。</li> <li>・所有者等による維持管理が難しくなっているものもあり、今後さらに老朽化やき損、取り壊しが生じることも予測される。</li> <li>・把握された歴史的建造物の中に詳細な調査が行われていないものもある。</li> </ul>
対応する進捗評価項目とその推移	<p>○藩校養老館保存修理事業                      平成27年度：設計業務(社交金：街なみ環境整備事業)                      平成28～30年度：保存修理事業(集約促進景観・歴史的風致形成推進事業)                      平成30年度：活用整備事業(町単独事業)</p>
方針の達成状況・課題の改善状況に関する評価内容 (可能な限り定量的な評価を交えて自由記述)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・県指定史跡の藩校養老館の建物の保存修理事業が平成28～30年度の計画で開始された。また県指定有形文化財である多胡家表門の番所の修理や国指定史跡西周旧居の屋根の修繕なども適切に実施されている。</li> <li>・未調査物件については、島根県が平成28～30年度において県内全市町を対象に実施する「近代和風建築総合調査」に協力し、専門家による調査が実施されている。報告書の取りまとめの後、指定や登録などをめざす物件の検討を行うこととする。</li> </ul>
達成状況の評価、要改善事項	<p><input type="checkbox"/> 想定通り効果が発現している  <input type="checkbox"/> 今後発現が予想される  <input type="checkbox"/> 要対策検討  <input checked="" type="checkbox"/> 現段階では判断できない</p> <p>(要改善事項)</p>
計画見直しの必要性	<p><input checked="" type="checkbox"/> 計画の見直しが不要  <input type="checkbox"/> 計画の見直しが必要                      (見直しの理由・方針)</p>

総括評価シート【方針の達成状況等】

(様式2-1)

評価対象年度	平成26 年度～ 28 年度
計画に記載している方針	<p>3. 歴史文化の息づく街並み・集落の環境の保全・整備                      歴史的街並みとしての面的な保存・活用を検討するとともに、歴史的な環境と調和した良好な生活環境や景観の保全・形成などに取組む。また、棚田や田園の景観の保全、自然環境(景観)の保全などに取り組み、面的・ネットワーク的に歴史文化の息づくまちづくりに努める。</p>
計画に記載している課題	<p>歴史的建造物や地割りの残る街並みにおいては、過疎化・高齢化を背景として、空き家や空き地が増加している。また、集落地においても、空き家や耕作放棄地の増加が進んでおり、景観の変容にもつながっている。</p>
対応する進捗評価項目とその推移	<p>○伝統的建造物群保存事業修理・修景事業実績(年実績/累計)                      平成26年度: 2件/2件                      平成27年度: 4件/6件                      平成28年度: 3件/9件                      平成34年度: 3件/25件(見込み)</p> <p>○空き家再生事業(まちやステイ) 2棟完成                      平成27年度利用者 159人(55組)                      平成28年度利用者 157人(46組)</p>
方針の達成状況・課題の改善状況に関する評価内容(可能な限り定量的な評価を交えて自由記述)	<p>・平成25年度において重要伝統的建造物群保存地区が選定され、平成26年度から事業に着手し、年間2～4件程度の保存修理、修景事業が行われており、今後とも継続していく必要がある。</p> <p>・防災対策事業については、伝統的建造物群保存地区を中心として、平成28～29年度において防災対策計画策定調査事業を実施しており、計画の策定後、具体的な整備事業などを実施していく。</p> <p>・空き家再生事業については、当面の目標である2棟の建物の修理が行われ、簡易宿泊施設として活用が図られている。今後の成果を踏まえながら、さらなる事業化を目指していきたい。</p> <p>・休憩施設等整備事業と津和野駅周辺整備事業については、平成27年度においてデザインコンペを実施するとともに、一部について平成28年度から事業に着手した。引き続き計画的に事業を実施していく。</p> <p>・水路修景・改良事業については、菖蒲枅及び照明整備が完了し、重点地区内の総合的な水路・水質等の調査に基づいて、改善に向けた検討を実施しており、まとめ次第事業に着手する計画。</p>
達成状況の評価、要改善事項	<p><input type="checkbox"/> 想定通り効果が発現している  <input checked="" type="checkbox"/> 今後発現が予想される  <input type="checkbox"/> 要対策検討  <input type="checkbox"/> 現段階では判断できない</p> <p>(要改善事項)</p>
計画見直しの必要性	<p><input checked="" type="checkbox"/> 計画の見直しが不要  <input type="checkbox"/> 計画の見直しが必要                      (見直しの理由・方針)</p>

総括評価シート【方針の達成状況等】

(様式2-1)

評価対象年度	平成26 年度～ 28 年度
計画に記載している方針	<p>4. 歴史文化を活かした観光振興等による地域の活性化</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・文化財の所有者や関係団体等と連携し、文化財や歴史的風致の保存とあわせて、その価値や魅力を引き出して観光振興へつなげていく。</li> <li>・案内板や説明版、誘導標識の整備・充実、歩行環境の整備等によって回遊性を高めるとともに、文化財等をめぐる機会や体験機会の確保、広域的な情報発信に努める。</li> </ul>
計画に記載している課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・社会情勢の変化により、観光客の志向も多様化し、新たな魅力作りが求められている。また、観光客の減少は地域経済の衰退を及ぼし人口減少により地域の活力が失われていく。</li> <li>・重点地区においては、歴史的街並み及び文化財の立地は面的な広がりを持つが、案内表示や歩行環境、情報提供は十分とはいえず、ネットワーク的な活用は極めて限定的である。</li> </ul>
対応する進捗評価項目とその推移	<p>○旧城下町等サイン整備事業</p> <p>【第Ⅰ期事業】</p> <p>平成26年度：総合案内板(主要駐車場) 4基(街なみ環境整備事業)</p> <p>平成27年度：誘導案内板(歩行者向け) 11基( " )</p> <p>平成28年度：誘導案内板(自動車向け) 8基(都市再生整備事業)</p>
方針の達成状況・課題の改善状況に関する評価内容(可能な限り定量的な評価を交えて自由記述)	<p>・サイン整備事業については、第Ⅰ期事業としては計画以上の成果を達成することができた。また、平成28年度においては第Ⅱ期(30～31年度)の計画分を都市再生整備事業により前倒して事業を実施し、回遊プランの設定などソフト面での整備も進め、早期に観光客等が安全・安心して回遊できる環境づくりを進めていく。</p>
達成状況の評価、要改善事項	<p>■想定通り効果が発現している</p> <p>□今後発現が予想される</p> <p>□要対策検討</p> <p>□現段階では判断できない</p> <p>(要改善事項)</p>
計画見直しの必要性	<p>■計画の見直しが不要</p> <p>□計画の見直しが必要</p> <p>(見直しの理由・方針)</p>

総括評価シート【方針の達成状況等】

(様式2-2)

評価対象年度	平成26 年度～ 28 年度
その他の項目(波及効果等)	平成27年度においてストーリー「津和野今昔～百景図を歩く」が、文化庁から「日本遺産」に認定された。これにより、国内外にむけた文化財等の情報発信を進め、文化財等をめぐる機会や体験等の機会が増えてきた。
関連する課題	日本遺産魅力発信推進事業においても、案内所などに総合案内板を、構成文化財(34)の各所にスポットサイン(解説版)を設置することを目指し、テーマに基づいたまち歩きができるように環境を整備する必要がある。
対応する進捗評価項目とその推移	○日本遺産構成文化財サイン整備事業 平成28年度 総合案内板 2基 エリアサイン 6基 スポットサイン 7基
項目の達成状況・課題の改善状況に関する評価内容(可能な限り定量的な評価を交えて自由記述)	総合案内板や誘導サインを考慮しながらスポットサイン整備することで、さらに回遊性を高めることが可能となる。構成文化財のスポットサインの未整備分(27箇所)の整備についても今後計画的に実施していく必要がある。
進捗状況の評価、要改善事項	<input checked="" type="checkbox"/> 想定通り効果が発現している <input type="checkbox"/> 今後発現が予想される <input type="checkbox"/> 要対策検討 <input type="checkbox"/> 現段階では判断できない  (要改善事項)
計画見直しの必要性	<input checked="" type="checkbox"/> 計画の見直しが不要 <input type="checkbox"/> 計画の見直しが必要 (見直しの理由・方針)

総括評価シート【方針の達成状況等】

(様式2-1)

評価対象年度	平成26 年度～ 28 年度
計画に記載している方針	<p>5. 住民等の理解と参加・協同による取組展開                      住民等の理解と協力を推進力に、歴史的建造物の保存・活用や良好な周辺環境の保全・形成、伝統芸能の担い手の確保を進めるため、文化財等の調査や情報提供、普及啓発に努めるとともに、町民参加・協働の仕組みを構築する。</p>
計画に記載している課題	<p>伝統芸能及び民俗芸能の継承や、文化財の保護・活用の担い手として、住民等の協力と参加を継続的に得ることに対する取り組みが十分でない。</p>
対応する進捗評価項目とその推移	<p>○「津和野まちなみ保存会」の設立と会員数                      平成28年度:61世帯                      平成29年度:75世帯(予定)                      平成34年度:150世帯(〃)</p> <p>○「津和野地域文化協会」の設立と加盟団体・個人数                      平成28年度:21団体・個人                      平成29年度:25団体・個人(予定)                      平成30年度:40団体・個人(全町統合:予定)                      平成34年度:45団体・個人(目標)</p>
方針の達成状況・課題の改善状況に関する評価内容 (可能な限り定量的な評価を交えて自由記述)	<p>・「津和野まちなみ保存会」は、設立時の加入者が伝統的建造物群保存地区内の216世帯のうちわずか61世帯にとどまっている。将来的には制度を有効に活用し、定住者・事業者を増やしていくため、全世帯の加入をめざして取り組みを進めていく。</p> <p>・「津和野地域文化協会」は、既存の日原エリアの文化協会(14団体)と連携することで、町内全体への取り組みへとつなげていくことが期待されている。当面は各地域ごとに文化祭などを開催することで、町民が文化へ触れる機会を増やし、継承者の育成を図っていくものとする。</p>
達成状況の評価、要改善事項	<p><input type="checkbox"/> 想定通り効果が発現している  <input checked="" type="checkbox"/> 今後発現が予想される  <input type="checkbox"/> 要対策検討  <input type="checkbox"/> 現段階では判断できない</p> <p>(要改善事項)</p>
計画見直しの必要性	<p><input checked="" type="checkbox"/> 計画の見直しが不要  <input type="checkbox"/> 計画の見直しが必要                      (見直しの理由・方針)</p>

評価対象年度 平成26年度～ 28年度

・歴史的風致維持向上施設の整備・管理

代表的な取り組み①: 空き家再生整備事業

(取り組み概要)

民間組織の「津和野まちなか再生推進協議会」の協力を得て、古民家を改修し活用を図るための事業「まちなか再生事業」を町が立ち上げ、希望者を広く募集した。応募のあった物件と他の候補物件について検討し、平成26年度に「まちやステイ戎丁」として、28年度に「まちやステイ上新丁」としてそれぞれ整備事業を実施した。

事業の実施にあたっては、設計及び施工を地元業者に委託するとともに、監修者として京都で町家ステイ事業を展開している庵プロデュースの指導を受けた。まちやステイは、周辺の宿泊施設との差別化を図る必要があったことから、より質の高い高級志向の観光客の宿泊を前提としている。上新丁については、伝統的建造物群保存地区内の特定物件であることから、保存計画に基づき、解体調査等を実施の上、外観の復元修理を行っている。

戎丁については平成27年度から、上新丁については平成28年度からいずれも津和野町観光協会を指定管理者として指定し、宿泊及び管理業務を委託している。

【まちやステイ戎丁: H26実施】



[修理前]



[修理後]

【まちやステイ上新丁: H27実施】



[修理前]



[修理後]

(自己評価)

空き家再生事業は当初の計画期間内に完了することができたが、整備後の活用については十分に進んでいない。これまでの施設利用実績については以下の通りである。

平成27年度: 戎丁 159名(55組)

平成28年度: 戎丁 94名(35組)、上新丁 63名(11組) 計 157名(46組)

まだまだ利用実績としては少ないことから、指定管理者と連携して体験プランなどもあわせてPRを行い、利用者増を図っていききたい。

また、重点区域内には歴史的建造物が多数存在しており、早急に整備が期待されているものもある。今後も必要に応じて整備が実施できるよう、所有者などとの協議を進めていくこととしている。

(外部評価)

・外部有識者名(役職・肩書き等): 河田周(津和野町都市計画審議会会長・文化財保護審議会委員)

・外部評価実施日: 平成29年5月15日

・有識者コメント

- ・「津和野まちなか再生推進協議会」において、住民の意見を十分取り入れるとともに、旅館組合との調整も事前に行われてきており、適切に実施されたと思われる。
- ・まちやステイ戎丁は、伝統的建造物群保存地区外ではあったが、それと同等の基準で外観の整備が行われ、まちなみ景観の向上に寄与している。
- ・利用者の数があまり伸びていないので、PRやイベントを通じて増やしていくよう努力して欲しい。
- ・重点地区内において、今後もこの制度を活用して同様の、または他の利用を念頭に整備を行う計画はあるか。



意見聴取



現地評価

(今後の対応方針)

・春からネットでの申し込み、クレジットカード決済もできるようになったことから、指定管理者である観光協会と一緒にPRに力を入れていきたい。

・今後、対象となる物件があり、積極的な活用を図る仕組みが構築されていけばこの制度を活用して整備を実施することは可能であると考えている。



評価対象年度 平成26年度～ 28年度

・その他(事業効果等)

代表的な取り組み①:文化財の保存・活用

(取り組み概要)

重点区域内における文化財の修理・活用事業については、多胡家表門番所(平成26～27年度)、伝統的建造物群保存地区における修理・修景事業(平成26年度～)、藩校養老館(平成28～30年度:平成31年度以降評価対象)、西周旧居屋根修理事業を実施した。

多胡家表門番所については、事業完了後、観光客の多い夏～秋にかけて定点ガイドをつけて一般公開を行った。また、伝統的建造物群保存地区における事業では、空き家を改修してレストランとして利用したり、新たに事務所として利用されたりするなど一定の効果が現れはじめています。また、既存物件でも旅館や土塀などの外観を修理することで、まち並み景観をより良くする取り組みが進んでいる。

【多胡家表門保存修理:H26～27実



[修理前]



[修理後]

【西周旧居屋根修理:H28実施】



[修理前]



[修理後]

【よしのや外観保存修理:H28実



[修理前]



[修理後]

(自己評価)

文化財については、「津和野町歴史文化基本構想」や「津和野町教育ビジョン」に基づいて事業を進めている。養老館整備や伝統的建造物群保存地区における事業については、計画的に事業が実施されているが、鷲原八幡宮や永明寺など、いまだ修理の方針が決まっていないものもある。特に文化財の活用にあたっては、文化財の価値を担保しつつ整備を行う必要があり、教育委員会だけでなく、観光部門や地域住民を巻き込んだ議論が必要となる。

(外部評価)

・外部有識者名(役職・肩書き等): 河田周(津和野町都市計画審議会会長・文化財保護審議会委員)

・外部評価実施日: 平成29年5月15日

・有識者コメント

- ・文化財の修理や伝統的建造物の保存修理・修景は各審議会において検討がなされており、適切に実施されている。
- ・伝統的建造物保存地区の制度については、地区内の住民に対する周知が不十分であることから、制度が有効に利用されるよう「津和野まちなみ保存会」と協力してPRに努めて欲しい。
- ・多胡家表門番所については、所有者から町が施設及び土地を取得することで、修理が実現した。表門は傾きがみられることから修理についても検討を進めて欲しい。
- ・主要な文化財である鷲原八幡宮や永明寺については、老朽化が進行し、観光客などからの苦情も多いと聞く。早期に計画を立てて保存修理事業に着手して欲しい。



現地評価



現地評価

(今後の対応方針)

- ・伝統的建造物群保存地区の制度は始まってから3年が経過した。地区内の住民の方には「津和野まちなみ保存会」の発行する通信を通じて広報を行うとともに、商店会や自治会等を通じて説明会などを継続して実施していきたい。
- ・文化財の修理には、行政の支援はもちろんのこと、所有者の理解と応分の負担が必要となってくる。有利な財源を活用できるよう準備し、計画的に事業を実施していきたい。

法定協議会等におけるコメント

(様式4)

評価対象年度	平成26～28年度
・法定協議会等におけるコメント	
コメントが出された会議等の名称: 津和野町歴史的風致維持向上協議会	
<p>会議等の開催日時:                  (第1回)平成28年8月4日実施                  (第2回)平成28年10月20日実施                  (第3回)平成29年5月19日実施</p>	
<p>(コメントの概要)</p> <p>(第1回:平成28年8月4日実施)                  ○JR津和野駅周辺整備について                  ・シンボルとしてのSLの移設について検討を行うこと                  ・車道と歩道の分離と安全性の確保について                  ・駅前のふさわしいモニュメントの検討を行うこと                  ・駅通りへ誘導するためのわかりやすい整備を など</p> <p>(第2回:平成28年10月20日実施)                  ○JR津和野駅周辺整備について                  ・障がい者や高齢者にやさしい歩道や駐車場の整備を                  ・SLについてはデザインコンペに示された位置を基本とする                  ・屋根付き通路は整備費も維持費のかかることから慎重に                  ・ロータリーの広さに問題はないか。安全性は保たれているか                  ・モニュメントには津和野が輩出した偉人を候補に                  ・トイレについてはより内容の充実したものが必要 など</p> <p>(第3回:平成29年5月19日実施)                  ○事業評価について                  ・藩校養老館の整備方針については整備後の活用を念頭に                  ・サイン整備の盤面デザインの決定は景観審議会を経るべき。チェック機能の整備を                  ・重点区域以外のサインの充実が必要ではないか                  ・空き家再生事業で整備された施設の利用者増の取り組みに期待                  ・伝建地区内の防災計画の策定に期待。早期に実行に移してほしい                  ・乙女峠や千人塚など文化財指定されていない箇所の景観が大きく変わってきている など</p>	
<p>(今後の対応方針)</p> ・駅前周辺整備事業については、実施設計をもとに細部について再度協議を行う ・養老館整備については、工期が1年程度延長する予想されることから、国や県と協議を協議を行い、予算の確保に努める。また、活用プランを早期に示して整備に反映させていく ・サイン整備にあたっては景観審議会の意見を反映させていく ・伝建地区内の防災計画の策定については、まちなみ保存会と連携して具体的な整備プランをとりまとめていく ・未指定文化財については、早期に調査を行って文化財定期価値を明らかにして、指定を検討するとともに、他の制度の活用についても検討する	